

【配信番号 6638☆ 2/2 P】No. 1  
 東大が解明 タウン症関連遺伝子 異常時に血管防御 がん治療薬開発に道  
 ◎日経産業新聞 [日経テレコン21] 2009年07月15日 初刊○ 9面  
 ※無断複製・転載・改変・引用を禁ずる

■ELMO  
 2009年 7月15日 9:  
 「本部広報グループ (研)

## タウン症関連遺伝子

# 異常時に血管防御 がん治療薬開発に道

東大が解明

東京大学の南敬・特任准教授らの研究チームは、タウノ症に関連する遺伝子の詳しい働きを突き止めた。がんや炎症など血管に異常が起きると活発になり、血管を防ぐといった。がんや炎症などの血管に異常が起きると活発になり、血管を防

がんや炎症の病気のメカニズム解明や治療薬の開発につながると期待している。

タウノ症は、21番染色体が原本に増えたことが原因で発症するが、同時に「DISCR-1」と呼ぶ

「一を失わせると、血管の防御が打ち切られた」とある。タウン症の人たちは、がんにならないというえ、動脈硬化などの血管に関連する病気が少ないことが知られる。

今回の研究はそのメカニズムの解明につながる成果といい、将來はがんや炎症の病気の新たな治療につながるといえる。